

大分県立竹田高等学校

関東同窓会 第23回総会・懇親会

とき 平成21年6月27日(土)

ところ ホテル グランドパレス

当番幹事 工藤 和博 (昭43年卒)



第23回総会・懇親会報告

皆さん懇親会は楽しんでいただけましたでしょうか。今年「弦楽ミニコンサートのコジヤレタ雰囲気の中で、思い切り懐かしい友との語らい」をメインテーマに、ふるさと竹田のはら太饅頭や干し椎茸などの土産物売店と長湯温泉宿泊券の豪華景品抽選会を行いました。

お陰様で、二五六名という過去最高の参加数を記録しました。これも役員の皆様の献身的な活動、更には昨年の学年幹事の活躍が大きく影響したものと分析しております。この場を借りて関係者の皆様に感謝申し上げます。

ではここで、我々がこの一年間何をどうしてきたかの一部をご紹介しますと思います。

一年前の四月、F君から「来年は俺たちが当番幹事じゃあけん、今年の同窓会は出席せんといかんで」と言われ、とにかく六月二十八日同窓会に出席しました。

大分県立竹田高等学校
関東同窓会
第38号

発行者・会長 用正靖彦
編集者・委員長 田部修士
発行所・関東同窓会事務局
〒245-0016
横浜市泉区和泉町4384-2
電話 045-803-5677

<http://www.geocities.jp/kantohitaketa/>

同級生が数人来ていましたが名前も思い出さないうらい久しぶりでした。そのうちカネや太鼓とともにあの見慣れたお神楽が始まり、司会者の竹田弁と相まって大盛り上がりの中に終了しました。感想「すげーのー」「俺たちどげーしたらいいんじやろかのー」とにかく途方にくれました。

七月、早速第一回目打合せ会議が行われました。本部役員の方々が出席、四三年卒5人、五十三卒4人で、これから幹事が決めるべきこと、やるべきこと予算等の説明を受けました。

八月、まず場所の選定ということでグランドパレスホテルと幹事数人が料金日程・収容人数・料理飲み物等について交渉。Y君「同郷のK支配人のお陰じ比較的好い方向に進みそうじゃなあ」

九月、場所の次はアトラクション。過去の総会記録をいたたき、同窓の歌手や落語家、プロのバンドや和太鼓・楽器演奏、自作自演のカンカン踊り、神楽など様々。K「場の盛り上げからは今年度の城原神楽に敵うことはで

けんで」Yちゃん「べつに対抗することないと思うわ。久しぶりに会うた同級生と話がしたくて来た人にとっては話す時間がないか」F君「竹高の後輩がやつちよる一番搾りというバンドはどうかのお」Yちゃん「竹田から交通費かけて呼ぶと予算オーバー。私の知り合いの娘がやっている弦楽五重奏に声かけて見ようか」F君「金が少しぐらいかかって後輩を育ててやりたいんじや」Yちゃん「二人だけのギターで誰も聞いてくれないとかわいそう。弦楽五重奏はBGMでかまわないと言ってくれてるし」K「小洒落た雰囲気存分に旧交を温めてもらう。というコンセプトでいこうかのー」議論が白熱したところで二次会に、Y君紹介で玉来出身の五反田「花善」に行き、カラオケで盛り上がる。

十一月、お土産と売店問題。S君「わざわざ来ちくれたのに土産がねえのはどうか」事務局「土産は禁止と数年前に決まっちゃよる」Sちゃん「じゃあ売店で故郷の物を売ればいいんですね。」事務局「ただし、費用は幹事の責任でやって下さい」F君「三笠野ははずせん。T屋にもいろいろ義理もあるけんど同級生のやつちよる」堂にしようや」Sちゃん「品物なにがいいか、一度竹田に帰って同級生達と相談してくるわ」Yちゃん「私も一緒に帰る」ということで四月に2人で帰省し、「竹田もそうとう

盛り上がっていて、関東同窓会ツアーで20人くらい来るそうよ」一月、それぞれの役割分担。N君「去年暮れまで中東に駐在していて今回から復帰しました。あとは任しちよくれ」二月、Sちゃん「私、ふるさと」という歌を作ったんよ」Yちゃん「ストリングスナカノに校歌を演奏してもらおうので、みんなで歌って録音を渡したい」というわけで、またいつもの花善へ。

いよいよ六月、最後の確認作業。受付責任者・写真係・会計係・売店係・ストリングスナカノ担当・司会・ホテル担当・本部が用意するもの・臥牛担当等々。ここでまた問題発生。N君「宴会場で焼酎にカボスを出したい」F君「今はまだ小さいので無理じゃ」N君「ハウス物ならある」F君「そげんもん出せん」Yちゃん「私が竹田の父にたのんでみる」と一件落着。

いやはや一年間色々ありました。久しぶりに真剣に故里のこと、母校のことを仲間と語り合いました。しかし終わってみれば、いい仲間が居て、いい先輩、いい後輩に恵まれ充実した一年でした。

この関東同窓会を始めた先輩、毎回の学年幹事、そして役員の方々、本当に頭が下がる思いです。伝統ある同窓会をこれからもずっと続けていたたい、我々が関東に移り住んでも古里と繋がっていることを確かめに行ける場所としていただきたいと思います。



首藤 新市長ご挨拶



竹田高校 上村校長ご挨拶



新、旧幹事による引継



元北九州市長 末吉様ご挨拶



名司会で懇親会が盛り上がる



当番幹事 新曲発表

フォトで綴る!!
第23回 総会親睦会風景

- プログラム
〔懇親会の部〕
12:20～14:30
1. 乾杯
 2. 会食・歓談
 3. アトラクション
 4. 当番幹事引継ぎ
 5. 「校歌」斉唱
 6. 閉会のことば



ストリングス中野の名演奏



竹高名物全員で“戦い勝てり”

★これらの写真は竹田高校関東同窓会のホームページで、見ることができます。

<http://geocities.jp/kantohtaketa/>

平成二十年度会務・会計報告

ご挨拶

同窓会会長 用正 靖彦
(昭三十年卒)

関東同窓会会員の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は同窓会の運営に格別のご支援、ご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

会の運営はご存知のとおり役員はじめ学年幹事、当番学年幹事の方々のボランティア活動で成り立っております。

会員数(今年の総会案内状発送数)は1834人で今年の総会・懇親会には過去最高の256名の方々にご出席を頂き盛大裡に終わることが出来まし



た。ありがとうございました。

今年には役員改選期にあたります。一昨年佐藤映之前会長の推挙により会長を仰せつかり就任いたしました。この2年間、会員および役員各位のご支援を頂き、今日を迎えることが出来ました。ことを改めて厚くお礼を申し上げます。

また、この度、去る3月24日開催の幹事会において続投を命じられ、非力をかえりみずお引受けすることと致しました。新役員は基本的には留任とします。が、お仕事の都合があつて一部交替し別掲の通りと致します。

会が安定的に継続していくためには、現在(1)若手会員の掘り起こし(2)維持会員の充実(3)学年幹事の充足が必要と考えます。会員の皆様のご協力を頂きながら一歩一歩進めてまいりたいと思っております。

そして、会員の皆様が参加したくなる会の運営を目指していきたいと思っております。どうぞ、従来に増してご支援を賜りますようお願い申し上げます。最後に、会員の皆様のご多幸をご祈念申し上げ再任のご挨拶と致します。

竹田高校関東同窓会役員

平成21年3月改選

役職	氏名	卒業年度
会長	用正 靖彦	昭和30年
副会長	総務担当 西 誠	昭和30年
	組織担当 加藤 興史	昭和33年
	企画担当 津下 渥子	昭和34年
	広報担当 塔尾 恵美子	昭和33年
幹事長	松良 修二	昭和34年
副幹事長兼名簿担当	倉本 正博	昭和44年
総務委員長	緒方 義信	昭和38年
企画委員長	井手 得郎	昭和41年
組織委員長	後藤 猛士	昭和41年
広報委員長	田部 修士	昭和42年
監事	坂本 勇	昭和28年
監事	桃溪 謙次郎	昭和37年
事務局	菅 紀代己	昭和34年

(相談役、顧問を除く)

会計報告

収支計算報告書

(平成20年4月1日より平成21年3月31日まで)

1. 収入		
(1) 維持会費	1,774,000円	
(2) 総会祝儀	1,872,000円	
(3) 総受取計	90,000円	
(4) 利息	1,281円	
前期繰越	3,737,281円	
合計	1,610,853円	
2. 支出		
(1) 総会費	2,061,354円	
(2) 会報費	747,759円	
(3) 会議費	336,123円	
(4) 名簿費	58,026円	
(5) ホームページ費	6,300円	
(6) 慶弔費	31,887円	
(7) 事務通信費	172,091円	
計	3,413,540円	
次期繰越	1,934,594円	
合計	5,348,134円	
3. 次期繰越の内訳		
(1) 現金	11,130円	
(2) 預金	1,923,464円	
計	1,934,594円	

上記の通り報告します。
平成21年4月10日

幹事長 松良 修二

監査報告書

監査の結果、この収支計算報告書は、適正かつ正確であることを認めます。

平成21年4月18日

監事 坂本 勇

監事 桃溪謙次郎

関東同窓会&竹田会では若い会員の参加を期待しています。若い世代は転勤などで住所変更が多く、メールにてお知らせいただきましたら名簿の整備をおこないますので、ご連絡下さい。新規会員も大歓迎です。

- 関東同窓会：ホームページ名簿委員 倉本さん
kuramoto_masahiro@es.smbc.co.jp
- 臥牛編集委員&竹田会：事務局 田部宛
stanabe@parker.co.jp

ノーベル賞作家 川端康成氏生誕110周年

— 半世紀前竹田高校で講演を聞く —

佐藤 映之(昭28年卒)

今から57年前、昭和27年の十月、私が高校三年在学のとある日、校内放送で全校生徒集合の号令がかかった。趣意の解からぬまま老朽化して校舎のきしむ廊下を鳴らしながら岩盤の上に建つ講堂へ急いだ。

主旨は、かの有名な文豪川端康成氏にご講演をいただくことであった。先導役は歌人でもあった古参の国語担当教師後藤是美先生であった。

川端氏は取材旅行の途次、竹田高校に立ち寄られることとなり、折角の機会故、無理を願って急遽、ご講演を賜わることになった由、演壇にご登壇の氏は暫く何も喋らない。小柄な体躯に大きな眼孔、ただ周囲を見廻すしぐさは少々異様にすら感じた。

訓話の内容は「竹田という地名はご当地の文人画家、田能村竹田からとったのではないだろうか? 竹田は歴史や文化を大切にす風土があるように思える。欧米、ことにフランス等は著名な芸術家の名筆を尊びその名を市名に取り入れる例が多く見受けられる。」歴史や地域の環境等を若干述べられ、結びは「皆さんは若い。日々新たにして新たなものを得て下さい。」と実に短い時間で言葉少なに壇上を降りられた。講演を終えた氏は、

久住・長湯・湯布院方面へ旅立つとのことであった。

川端氏が竹田を訪れた背景には後日わかったことだが解説者の言によると「千羽鶴」の続編を書きたいという著者の意欲は強く昭和27年には「山の音」を書きつなぎながら片方では「千羽鶴」に対する準備は少しも怠らなかつた。そのようなどころで偶然が割り込んできたようである。

十月に当時大分県在住の画家である高田力蔵氏が案内役をかって大分県が著者を招聘し県下の諸所をめぐる機会を与えてくれたようである。

ちなみに高田氏は著者が昭和4年、上野桜木町に住んでいた頃から親しくしており著者の作品に挿画の腕をふるったりした互いに気心知れた永い付き合いであった仲のようである。

川端氏の大分県訪問の足跡はのちにその作品の「続千羽鶴」の「波千鳥」の一節、旅の別離でみることが出来る。瀬戸内海航路、別府観音寺温泉、湯布院、筋湯温泉、法華院温泉、長者原、久住高原、そして竹田、と身近な地名が続々登場、特に竹田エリアでは竹田駅の荒城の月のメロディ、田能村竹田の旧居、キリシタン隠れ礼拝堂、広瀬神社、岡城、魚住の滝、

碧雲寺、古田織部子孫の竹田居所等々実に克明に記されている。短期間の取材でありながら鋭い洞察力には唯々、敬服の至りである。

岩の山 四方をめぐるて なかにおく

竹田の町と 秋の川音

おのづから 竹田の町は城に似ぬ

入るも出づるも 山の洞門

(与謝野 寛・晶子)

※川端氏引用歌一部より

川端氏の母校講演は私にとって掛け替えない教訓を与えてくれた。講演の結びの言葉「日々新たにして新たなものを得て下さい。」である。簡明で覚え易い言葉であるが心に残るものがあつた。

翌春、高校卒業、上京してその言葉の脈絡を知ることができた。中国の「大学」の名言で「苟(まこと)に日新(に)に、日日新(に)に、又日に新(に)なり」であり殷の伝説的名君 湯王(とうおう)が毎日使う手水(ちようず)の盥(たらい)にこの名辞を刻んで日々の自戒としたと伝えられる。

彌来、私はこの言葉を短縮して「日日新(に)に」を座右の銘にしている。常に前向きで、日日新たな気持ちで活力を得たいと念じてきた。齢、傾いた近年は特にトーンを上げ老化防止の特効薬として意識している。

改めて川端氏の貴重なご講演をいただく機会に恵まれたことに感謝、感謝である。

臥牛：こぼれ話(佐藤映之相談役に聞いた話)

ご存知の方もおられると思いますが、「九重は豊後の言い方で、九つの峰を含む広域の呼び方、久住はその中の一つの峰を指し、肥後の言い方」だそうです。何故肥後か?、その昔、江戸時代に久住には肥後の飛地もありました。

ついでにもう一つ。「レソナイト久住の窓は狭い。狸などの動物を嚇かさないように、夜間に光が漏れる窓を狭くしている」そうです。

特別寄稿

韓国の大学寮経験

佐保 幸寿 (昭51年卒)

首都ソウルから地下鉄で南に、一時間半程の海辺の町、京畿道始興市正往洞に赴任して一年半になります。

この町は、二十年程前に会社数四千社超の企業団地と住宅団地、文教施設、公園の整備が始まり、成長を続ける計画都市です。

この企業団地に私の勤務する会社があります。縁あって、会社と通りを挟む韓国産業技術大学の寮に住むことになり、学生達と交流する機会を得ました。

大学の寮といっても十八階建ての近代ビルです。地階に食堂街と劇場、一階に銀行、コンビニ、ペーカリー、フラワーショップ、喫茶店、無料ネットコーナー、書店、クリーニング、ヘアサロン、二階と三階にピアレストラン、ゲームコーナー、六階にプール、スポーツジム、七階から十七階が学生寮と日本の大学寮とは、様子がちがいます。

大学のホームページ
http://www.kpu.ac.kr/
mainEng/ind



大学寮の全景

私の部屋は、十八階の1LDKの小奇麗な眺望のよい部屋で、この階は外国人とゲスト専用でした。他の階の学生寮は、二人部屋と三人部屋で合計千五百人以上収容の大きな施設です。

知り合いになった十数人の学生達の様子を少しご紹介いたします。私の部屋によく訪ねてきた男子学生達は、休学して米国から日本に2年間位留学して、自分の価値を高めたい、大学院に進み、大手有名企業に就職したいと熱く語っていました。計画通りなら、彼等の社会人スタートは概ね二十八歳から三十才になつてしまします。

九割以上が大学に進学する韓国では、就職が激戦で、企業でのインターン経験、留学経験、語学力が求められ、大学も個人のスキルレベルを診断し、学業成績、インターン歴、留学歴、ボランティア歴など就職を希望する会社別に指導している様です。個人スキルの高さが、初任給三十万円か半分以下の分れ目と語っていました。

青春時代を兵役と学業、スキルアップの狭間で格闘しているようです。午前九時から午後五時が講義、課題と課外学習はとでも多く、深夜二時位まで掛かるのが日常の様です。寮生の食事は、朝はカップメンとおにぎり又はサンドイッチ(三百円程度)か、学食の朝食(韓食のみ三百円程度)、昼食と夕食は学食の各種定食(400円から



寮内のビリヤード場



学生の部屋

八百円程度)、夜食にまたコンビニのパターンが多い様です。そして彼らが好きなのは、ビリヤード、バスケットボール、ドライブ、コンサート、映画、PCゲーム等です。

月初の週末は仲間達と楽しみますが、後半は試験とレポートに追われ寮内が静かになります。繁華街も近く、学生達に人気の飲食店は、ピザハウス、バスタ料理店、フライトチキン、ステーキハウス、ショットバー、ビアハウス等の海外風のもので、回転ずし、日本式居酒屋も人気があります。

この様な学生生活に兵役が加わります。期間は、目安として陸軍が二年、海軍、空軍は二年半から三年とのことです。陸軍の規模が大きく期間も一番短いので、陸軍の入隊者が多いそうです。十九歳から二九歳の間に

義務付けられ、在学中に行く人が多いとのこと。

バイトをしている学生も多く、人気は、進学塾の講師で、一回二時間、月八回、時給三千元から五千元と高給です。学生達は、男女とも活発で、とても忙しく精力的に学生生活を過ごしていました。二〇〇七年十月から八ヶ月間、大学の寮に住まい賑やかで貴重な経験をしました。

その後、民間アパートに転居しましたが、卒業生、海外留学した学生、帰国した留学生達とメール交流が続いています。世界的な経済不況が押し寄せた今、彼等にメールを送り、彼等からメールを買っています。(09年5月)

大韓民国京畿道始興市正往洞 1209-2 韓一金属工業(株) TEL+82(0)31-928-0236



学食

昭和二十九年卒同窓会

竹禄会第五十五回総会

山口 雄三(昭二十九年卒)

五月二十四、二十五日、九州の「久住高原荘」での竹禄会第五十五回総会に関東地区より12名の会員が出席し、全国より参集した百二十数名の旧友との再会を喜び合った。

同期生の年齢を勘案すると、このような全国規模の同期会の開催は、今年が最後の機会になるので、と、幹事の思惑から、招集に特に力を入れたせいか、多数の同期生の誘引に成功したのだ。



た。そしてグループのそこで、再会を喜ぶ握手のラッシュが見られた。

総会後の懇親

会では、岡本の子供神楽をアトラクションに、会員による式三番、フラダンス、ハーモニカ演奏、カラオケなどで盛り上がり、三次会

まで及んだ。

翌日は、二台の観光バスを仕立てて大展望・九重「夢大橋」・天領日田の「豆田町の散歩」を楽しみ、親睦の度合いをさらに深め、来年の再会を約してそれぞれの帰途に就いた。

なお、今度の旅行では、ゴルフを愛好する十二名は、ブレイの都合で記念写真撮影に間に合わず、別の写真になっていくが、スペースの都合で残念ながら採録出来なかった。

◆◆◆「先輩から地元の生徒へ」◆◆◆

卒業

高橋 敏政(昭46年卒)

「やつと卒業」というべきか「もう卒業」というべきかは、その期間をどのように過ごしたかによるのでしよう。

私は、昭和46年3月竹田高校を卒業、翌年同期となる6名(卒業は4名)とともに横須賀市小原台にある防衛大学校に第19期生として入学し、自衛官としての道を歩み始めました。そして約37年間後の昨年12月、勲功退職により陸上自衛隊を定年退官、大過なくその任を終りました。

約37年間は人生の半分以上を費やした陸上自衛隊での入校期間でしたが、今振り返ると「光陰矢の如し」です。

若い20代では、小隊長として隊員と共に演習場等を昼夜分かたず駆け廻り、30代では中隊長として約100数十名を指揮、また司令

部の幕僚として一分野を担当し、40代では更に上級司令部の幕僚として日米共同訓練関係業務を統括、また米国防

陸軍の某司令部に3年間勤務する機会を得、帰国後金沢の連隊長として約1000名の隊員を指揮する機会を得ました。

隣国の脅威が増大している時期に北陸3県(富山、石川、福井)の防衛・警備を担当した事並びに福井豪雨、中越地震等の災害派遣に出動し災害復旧の支援等を通じて地域の安定に貢献にできたことは、入校期間中の忘れがたい思い出であり、最も充実した時期でした。50代ではそれらの経験を生かして後輩を育成する職務に従事しました。

さて、長い入校期間中、一体何を学んだのでしょうか? 振り返る前に、まず長期にわたる入校を可能にし、理解と協力、支援を惜しまなかった両親(母は5年前に他界)、弟、親戚等多くの関係者に

深く感謝をしたいと思えます。

以下、入校期間中に学んだことの代表的なものを述べてみたい。

その一つ目は、「与えられた若しくは期待された役割を果たす」ことの重要性であります。「籠に乗る人、担ぐ人、そのまた草鞋を作る人」といわれる様に、目的を達成する為には一人一人の力の結集が必要であり、一人一人が夫々の役割を果たすことが重要になってきます。指揮官一人では物事は達成されません。指揮官の意図を具現化する人、具現化されたことを実行する人達がいて、目的は達成されるのです。

まず、自分に任されている事をしっかりと行うことが大事です。そしてしっかりと行っていることが他の仲間がやっている事にも役立っていることを実感すると、やがてそれは自然と仲間意識(人の和)へと繋がっていき、信頼関係が構築されていきます。

そして最後には強い組織を作っていくことに繋がって生きます。

「自分の役割を果たす。」このことが原点であり、あらゆる組織、人間関係にも通じると思えます。

二つ目は、総合判断力を修練する場を頂いたことです。日常生活で人が行動を起こすときには、どんな些細なことも行動に先立ち何らかの判断を行います。

しかしその判断の結果が自らあるいは部下隊員の生命を左右するような事態、社会的に大きな影響を及ぼしかねないような事態の判断となる事は別となり、沈着、冷静かつ柔軟な判断・強固な決心

が必要となります。判断する上で何が重要なのでしょうか? 私なりの結論ですが、この事態において「何が最も重要なかを見極める(本質を見抜く)」ことであると考えます。物事を判断する時は、いろんな情報及び考慮条件が判断を容易にも困難にもします。そんな時は少し乱暴ですが最優先・最重要視すべきことは何かを見極めることが大切です。それさえ決まれば後は処置・対策事項で済みます。

このような判断過程(思考過程)を学んだのは入校期間中であり、それを実践できたのも入校期間中でした。小隊長は小隊長なりに、中隊長は中隊長として、その判断の影響力が大きい連隊長は連隊長として、「最重要事項は何か」を判断基準とし、各々の時において最適ではないかもしれないが適切な判断をしたものと回顧していただきます。そしてこのような修練の場を与えてくれた事に感謝していただきます。

陸上自衛隊という学校で学んだ事は、その任務・組織からくる特殊性であると思いがちですが、内容的には一般社会とんなら違いがあるものではなく共通するところが多々あると感じています。

陸上自衛隊を卒業、大げさに言えば「国防」という任を終え、新たな第2の人生を迎えようとしている今、学んだことを最大限活用し、社会貢献したいと考えています。

私の場合、「えーもう卒業なの?」である。

ふるさと名所紀行

龍馬が駆け抜けた豊後街道、久住、都野、直入……

「海舟日記と豊後街道」

田部 修士(昭42年卒)

江戸時代には豊後と肥後を結ぶ道が二つありました。一つが臼杵・野津・三重・岡・菅生、もう一つが鶴崎・野津原・今市・久住。ここで取り上げる豊後街道は後者で、面白いことにこの街道は熊本では、豊後街道と言われ、大分側では肥後街道と言われていた。武勇だけでなく、築城、土木治水灌漑の名手としても慕われていた清正公が開いた豊後街道(126km)は、細川公も参勤交代の道として使用されました。

街道は、熊本城下を出て現在の豊肥線に沿って東へ進み、阿蘇内牧から波野・白丹を経て北東へ進み、久住・今市・野津原を経由して七瀬川を下り、大分川の土手(ひごんみち)を北上、大分市内から東へ向かい鶴崎に到ります。

慶長6年(1601)天草の替地として清正公に大分郡・海部郡、直入郡の飛地が与えられ、鶴崎、野津原、久住に宿場町が建設された。その名残りとして日蓮宗のお寺や清正公を祭る神社が各地に残っています。鶴崎の法心寺、野津原神社(加藤神社)、法護寺。ルートから外れるが竹田市内の円福寺境内の鬼子母神像もその名残りか? 帰省の折に、大分学、の辻野功先生から、勝海舟と坂本龍馬が竹田に来た。話を伺いました。

ご紹介頂いた海舟日記に、長崎への行き帰りに豊後街道を辿り、岡藩を通じた。と記されており元治元年(1864年)に長崎へ旅をした二人の足跡をここに記しますと、

2月9日 勝海舟に長崎出張命令が出された。
2月14日 勝海舟は坂本龍馬らに従え外国艦隊長州攻撃慰留工作の為に長崎に向かう。

2月15日 佐賀関に入港、徳応寺に宿泊。
2月16日 鶴崎の本陣に宿泊。
2月17日 野津原に宿泊。
2月18日 久住の熊本藩主細川別邸に宿泊。

*辻野功先生の著書「大分学」に移り住むなら豊の国・大分」には「海舟日記」の記載があり、そこには
「17日 野津原に宿す。5里、山の麓にて、人家可ならず、八幡川あり。大抵一里半ばかり、川堤に沿うて路あり。海道広く、田畑厚肥、桃菜花盛、関東の3月頃の季節なり。野津原の宿より出ずれば山路。この路、久住山を左に見る。

往時、この宿の村長三輔なる者、山中より水源を引き、三渠を引く。これより古田20余町、新田3町余町を得たりと、その事業を記す碑あり。18日久住に宿る。細川公の旅亭。惣体、葦屋、素朴華美の風なく、庭中泉を引き、末、田野に流る。七里地は、久住の山脚にして、殆ど高嶺、地味可なり。山泉を引きて左右に導く。小流甚だ多く、架する橋は皆石橋、円形に畳み、橋杭なし。導泉意を用いて左右数所。林木これが為に繁茂し、稲粟、皆実るべし。

その巧妙、尽力の到る殊珠に感ずべく、英主にあらざれば、この挙興しがたかるべし。他領、公田の雑る所、熊本領に及ばず。19日 内牧に宿す。」とあります。

2月19日 熊本城下・新町の本陣に入る。
3月24日 勝海舟 長崎にて蘭国領事と会見。
3月25日 米国領事と会見。
3月29日 英国領事と会見。

4月2日 蘭国領事と会見、下関攻撃2ヶ月延期を約束させる。
4月5日 高原に入る。
4月7日 内牧に入る。
4月8日 久住に入る。
4月9日 野津原に入る。
4月11日 佐賀関より乗船、兵庫に向かう。
この後、勝海舟は一橋公に拝謁、軍艦奉行に昇進、安房守と称する。

ところで参勤交代の移動は一日約10里と聞いていますが、まさに街道を駆け抜けて暮末を生きた人々の情熱と健脚には驚愕します。

さて、問題は久住の細川別邸です。旧久住小学校跡(参勤交代の本陣)と納池公園が細川公の飛地でしたが、「海舟日記」にある。質素な茅葺屋根、庭中泉を引く。などの記述から私は納池公園に宿泊したのではないかと想像しています。

司馬遼太郎の「竜馬がゆく」では、海舟は龍馬らを伴い馬関海峡を通り肥前伊万里から長崎に向かった。とされていますが、佐賀関の徳応寺に宿泊記録が残されており、「海舟日記」にも豊後街道を経由、長崎に向かったと記されています。

私どもの故郷をこよなく愛しておられる辻野先生は大分を代表し、史実は海舟と龍馬が豊後街道を駆け抜けた。と声を大にしておられます。

久住の細川別邸、納池公園と龍馬にまつわる記録などが集まれば、先生と声をつなぐにして全国へ歴史街道・竹田市久住のPRが叶うのではないかと折念します。国の行く末を案じる海舟先生と龍馬が、久住、祖母の雄大な山並みを眺めながら小倉峠で立ちしよんべんをする姿を思い浮かべるといよいよ夢膨れる思いがします。

(資料提供:竹田市・佐伯さん、志賀さん、横浜市・工藤敏勝さん)

「会員便り」

河野 祐司(昭16年卒)

拝啓 会長初め、幹事の方々御健勝に御多忙の日々かとお察ししております。尚一層の御自愛をお祈り致します。

先の「臥牛」誌上に、小学生漢詩を掲載いただき有難うございました。ちょっと、蛇足ながら、「臥牛」といふ会誌名について、述べさせていただきます。

私の父が、若い頃から俳句に親しんでいて、雅号を「岡城」と称してましたので、三十年位前から俳句を始めた私が、そのローカル名の「臥牛」を俳号として使用しております。そんなことで、会報誌「臥牛」に特に親しみを感じている次第です。

以上、蛇足を述べました。さてそこで投句を致します。

送り日はささやくように燃え尽きぬ

父が居て母が居て月愛でし日よ

人老ふも月は満ち欠けつゞくのみ

短か世を舞ひ納めして落葉かな

木蓮の花みな天に杯を挙げ



「ご挨拶」竹田高校同窓会

会長 後藤 真志(昭42年卒)

竹田高校関東同窓会会員の皆様方におかれましては、益々ご清栄のことと心よりお慶び申し上げます。

去る一月二十六日、急逝された後藤宗昭会長の後、六月に同窓会長に選任されました。浅学非才の身であります。同窓会・竹田高校を思う強い気持ちでこれから取り組んでいく所存です。よろしくお願いいたします。

さて、六月二十七日の総会は、300名にもなろうかという会員の方々のご出席のもと盛大に開催されました。皆様方の竹田高校への励まし、ふる里への激励等、思い入れの深さをあらためて感じました。

本年も修学旅行では皆様のご支援、ご協力をお願いしております。生徒たちもこの修学旅行を通じて先輩方との交流は、意義あるものとなるに違いありません。宜しくお願いいたします。

又、地方の少子・高齢化が著しく進み中、地元を問わず同窓会として、この厳しい状況をチャレンジャーと捉え、新たな竹田高校の発展、向上のために、強力な支援体制の再構築、会員相互の強い絆づくり等々、新たなチャレンジを会員の方々と一緒に取り組んでいきたいと思っております。より一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。竹田高校関東同窓会の発展、会員皆様のご健勝ご活躍をご祈念申し上げます。



〈竹田高校修学旅行〉

岩田 秀士(2学年主任)

竹田高校2年生は、12月1日(火)～5日(土)の日程で東京方面への修学旅行を実施します。今年度は大学研修を割愛し、3日目に午前・午後2社の企業訪問を行うこととしました。生徒自身が選んだ企業へ生徒が直接アポを取り、訪問企業を決定しています。この訪問を通して企業活動の実際を知るとともに、職業人としてのあり方や社会貢献のあり方を学び職業観を育てて欲しいと思っています。

また、社会全体に対する広い興味関心を持ち、職業選択や大学選択、進路開拓に役立てて欲しいと考えています。

訃報

慎んでお知らせ申し上げます。心からご冥福をお祈り致します。

物故者御芳名

- 後藤 裕 様(昭二十五年卒) 平成二十一年二月 没
- 寺山 顕 様(昭二十八年卒) 平成二十一年二月 没
- 高橋 誠 様(昭三十二年卒) 平成二十一年二月 没
- 森 義幸 様(昭二十五年卒) 平成二十一年三月 没
- 高山 茂美 様(昭二十六年卒) 平成二十一年四月 没

次回 2010年関東同窓会

総会・懇親会

7月10日(土) 12:00

ホテル グランドパレスにて

あとがき

※「投稿」をお待ちしています。

この会報は会員皆様方の情報交換の場として編集しています。関東同窓会会員の方々の投稿を期待していますが、その数が少なく苦勞しています。お互いの交流の場としてもぜひお活用下さい。

連絡先

T103-0027

東京都中央区日本橋一丁目15-1

日本パーカライジング

田部 修士 宛(広報委員長)

TEL 03-3278-4307

FAX 03-3278-4309

維持会費の納入者の現況

●維持会費でご負担のお礼とお願い

*関東同窓会は、維持会員の皆様の日頃からの、深いご理解とご協力に支えられて、安定的なあゆみが続けております。またことによりありがとうございます。
*未済となっておられる方々には、何かと出費ご多端の折りかとも思いますが、ご協力方よろしくお願い申し上げます。

●平成20年度年会費納入者芳名簿

(平成20・4・15・21・3・31)〔総務委員会〕

お名前もれがございましたら、同窓会事務局までご連絡下さい。

TEL03(5832)6531 FAX03(5832)6532

学年	氏名	学年	氏名	学年	氏名	学年	氏名
昭和6卒	山口 立	昭和30卒	吉川隆治	昭和36卒	大塚忠士、小代文喜	昭和43卒	姫野純二、堀 正孝
昭和11卒	田部 健、武藤省三	昭和31卒	足立良一、阿南忠義	昭和37卒	安藤俊和、白杵親彦	昭和44卒	朝倉 幸、阿南修平
昭和13卒	小倉幸雄	昭和32卒	安藤慶子、大塚隆右	昭和38卒	大塚泰子、甲斐賢生	昭和46卒	本田壮一、都 俊生
昭和15卒	須藤勲一	昭和33卒	亀崎正幸、葛生良子	昭和39卒	木内千草、岸野聡賢	昭和47卒	衛藤恭子、工藤美智子
昭和16卒	岩田 孝、河野祐司	昭和34卒	後藤善郎、佐藤清八	昭和40卒	佐藤征照、西山洋子	昭和48卒	下田和広、野村邦博
昭和19卒	後藤忠士、服部舜次	昭和35卒	真田はつみ、真田政子	昭和41卒	廣瀬喜征、古沢楠也	昭和49卒	日高慶記、古庄美鳥
昭和20前卒	足立五郎、四宮 坦	昭和36卒	四宮俊夫、西 誠	昭和42卒	古庄正欣、桃溪謙次郎	昭和50卒	保坂齋子、本田 徹
昭和20後卒	那須隆澄	昭和37卒	丸山尚子、堀光貞枝	昭和43卒	阿部 稔、緒方義信	昭和51卒	小川愛子、工藤博臣
昭和23卒	池内勇吉、近藤秋男	昭和38卒	西山尚子、堀光貞枝	昭和44卒	熊谷克直、洪賢二郎	昭和52卒	小池健治、鈴木多美子
昭和23卒	布施泰義、和田眞琴	昭和39卒	盛 哲男、用正靖彦	昭和45卒	田北則夫、中野裕子	昭和53卒	飯田良典、板井 健
昭和23卒	渡邊眞一	昭和40卒	吉川恵啓	昭和46卒	古川勝俊、古庄史郎	昭和54卒	小出裕子、小松子鶴子
昭和23卒	堀 健一	昭和41卒	阿南 暉、大崎敏夫	昭和47卒	安藤 紀、江藤登之輔	昭和55卒	佐藤史紀、鈴木敬子
昭和23卒	堀 健一	昭和42卒	岡村光博、岡部由子	昭和48卒	吉田英明	昭和56卒	田北秀彦、長浜和子
昭和23卒	堀 健一	昭和43卒	小代邦弘、後藤桂子	昭和49卒	伊藤大義、大坂好美	昭和62卒	藤島ひとみ、三村美奈子
昭和23卒	堀 健一	昭和44卒	佐藤充子、後藤良友	昭和50卒	志賀民主、首藤利幸		
昭和23卒	堀 健一	昭和45卒	鈴木八千代、高橋勝和		秦 敦彦、田部 厚		
昭和23卒	堀 健一	昭和46卒	高橋 誠、高山武俊		羽立圭爾、藤田和宏		
昭和23卒	堀 健一	昭和47卒	藤原保範、松良邦夫		古庄幸一、堀田 大		
昭和23卒	堀 健一	昭和48卒	三浦弘子、村尾イミ子		孫田 肇		
昭和23卒	堀 健一	昭和49卒	山口靖之		池田典幸、井手得郎		
昭和23卒	堀 健一	昭和50卒	加藤興史、齊藤須磨子		伊藤誠至、衛藤昌平		
昭和23卒	堀 健一	昭和51卒	佐藤誠一郎、立川美知		河野精一、工藤弘明		
昭和23卒	堀 健一	昭和52卒	土屋健児、塔尾恵美子		栗田信子、後藤彰二		
昭和23卒	堀 健一	昭和53卒	森河 清、山下忠男		後藤猛士、坂本美穂子		
昭和23卒	堀 健一	昭和54卒	阿南洋子、大津琴江		佐田俊一、竹下 勉		
昭和23卒	堀 健一	昭和55卒	小澤康三、菅紀代巳		中神章彦、都 文生		
昭和23卒	堀 健一	昭和56卒	後藤大林、後藤恒嘉		山田房子		
昭和23卒	堀 健一	昭和57卒	後藤光正、佐藤幸一		小野美奈子、工藤健二		
昭和23卒	堀 健一	昭和58卒	武内英則、津下渥子		児玉幹生、後藤十四生		
昭和23卒	堀 健一	昭和59卒	土屋ヨシエ、根本英子		佐田重夫、真田正紀		
昭和23卒	堀 健一	昭和60卒	服部恭一、松本修二		瀬川悦子、染井 洋		
昭和23卒	堀 健一	昭和61卒	水野紀代子、山本栄子		田部修士、野伊津子		
昭和23卒	堀 健一	昭和62卒	吉岡卓也、吉崎祥子				
昭和23卒	堀 健一		和田 剛				
昭和23卒	堀 健一		麻生三郎、板倉 靖				
昭和23卒	堀 健一		伊深佳洋子、衛藤俊司				
昭和35卒	山口雄三、山田百子						
昭和35卒	山口雄三、山田百子						
昭和35卒	山口雄三、山田百子						

以上323名の皆様より維持会費の納入をいただきまして幹事一同心よりお礼申し上げます。